

を示しており、総コレステロールで1～7%の低下を認めている。これに対して、HDL-コレステロール濃度は変化を認め得ない。つまり、LDL側のコレステロールの低下が起ることが考えられるが、この反応は、親も息子にも認められる。しかし、きわめて僅かながら、息子により反応の明らかな傾向が認められる。トリグリセライド値に関しては殆んど変化は認められない。

【おわりに】

家族性高コレステロール血症（II a, ヘテロ型）家族14家族における親と、罹患息子との間の血清脂質を検討した結果、HDL-コレステロール値は、父親、母親のそれ

に、それぞれ正の相関を認めた。また、脂肪の量、質、繊維などの食事成分を中心とした食事指導を行った結果、総コレステロールは5～6ヶ月後、1～7%の減少を認めた。トリグリセライドは母親で軽度上昇、HDL-コレステロールは、母親で減少した。総コレステロールの減少は親よりも、息子により反応が明らかのようにみえた。

小児期より、早期に食事指導を行い、血清脂質ヤリが蛋白の改善を行うことで将来の動脈硬化性疾患の発生を防止することの期待がもたれるが、今後長期にわたる観察を待たなければならない。

小児高脂血症の日常生活管理の研究 腎移植患者にみられる高脂血症の食事療法

都立小児病院 熊谷 通夫
伊藤 拓
中原 千恵子
初鹿野 浩

透析患者の糖脂質代謝異常に対する食事療法の影響については前回の報告で述べたが、これら患者に腎移植を施行した後も糖脂質代謝異常は存続し心血管合併症の危険因子として長期予後に重大な影響をもっている。腎不全末期、透析治療中、腎移植後の夫々の時期にみられる

高脂血症の型は夫々の時期に特徴的であるが、その成因についての理解は充分とはいえず、また施行している治療(透析、薬剤、移植など)の影響を考慮にいれるときは問題の解決を一層困難にしている。今回は腎移植後にみられる II b 型高脂血症の成因の理解のために食事療法を

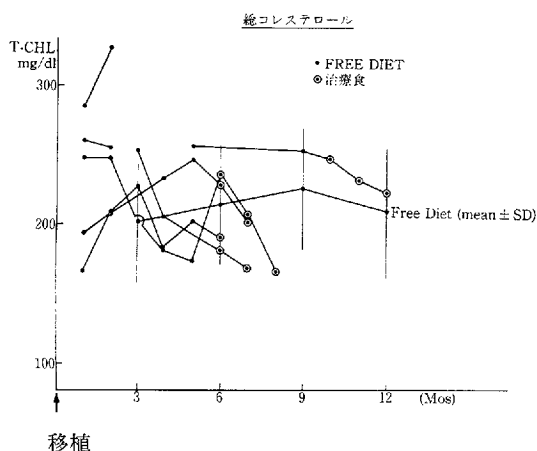


図 1

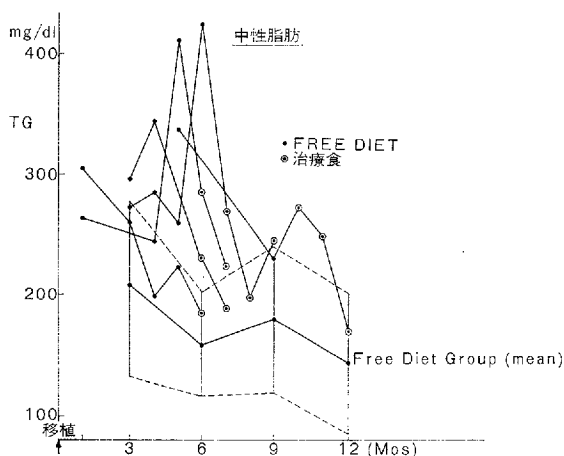


図 2

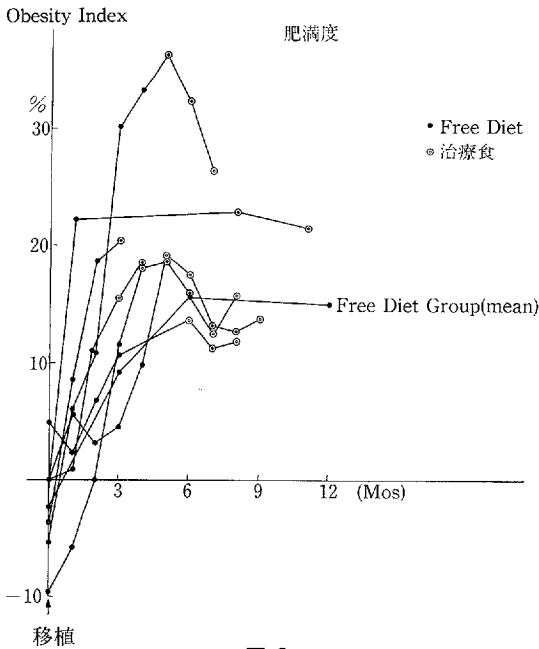


図 3

試みた。

〔症例及び検討方法〕

55年12月以降腎移植をうけ、移植腎が機能している7例を対象に下記の如き食事を投与し、一ヶ月毎に脂質検査、3ヶ月毎に糖負荷テストを施行した。開始時期は移植後3ヶ月～9ヶ月(平均4.8ヶ月)である。食事内容。カロリー：身長相当体重必要カロリーの80%、糖質：50%、脂質：30%(P/S 1.5)、蛋白：20%。

使用薬剤。メチルプレドニン、開始時平均0.6 mg/kg/day～3ヶ月時維持量0.45 mg/kg/day とアザチオプリン又はプレドニン 3 mg/kg/day の併用。

〔結果〕

(1) 肥満度：FREE DIET 群22例の肥満度は移植前

-2.2%、3ヶ月9.3%、6ヶ月15.6%、12ヶ月14.4%と移植後3～6ヶ月に急激に増加し以後は一定となる傾向が認められた。治療群の治療開始時肥満度は19.6%、1ヶ月後20.9%、2ヶ月後17.7%、3ヶ月後12.3%と治療食開始後肥満度に抑制のかゝる傾向が認められた。

(2) 血清総コレステロール：FREE DIET 群では移植後3ヶ月200.4 mg/dl、6ヶ月213.1 mg/dl、9ヶ月226.0 mg/dl であるのに対し、治療群では開始時240 mg/dl、3ヶ月184 mg/dl と減少の傾向が認められた。

(3) 血清 TG：FREE DIET 群では3ヶ月209 mg/dl、6ヶ月157.3 mg/dl、9ヶ月178.1 mg/dl であるが、治療群では開始時310 mg/dl、3ヶ月後199 mg/dl と減少の傾向が認められた。

(4) 血清 HDL-C：FREE DIET 群では3ヶ月63 mg/dl、6ヶ月49.2 mg/dl、治療群では開始時70.5 mg/dl、3ヶ月後46.2 mg/dl であった。

(5) LCAT：FREE DIET 群では3ヶ月53.2、6ヶ月67.6であったが、治療群では開始時99.0、3ヶ月72.0であった。

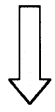
(6) OGTT：治療食開始後3ヶ月後に施行し得た3例では、IRI の基礎値の明らかな低下がみられた。(54.9±37.7→10.2±2.0)

(7) PAG DISK 法によるリポ蛋白分画、アポ蛋白、LPL については現在検討中である。

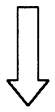
〔結論〕

今回用いた食事で肥満度の促進は抑制される傾向がみられ、これに伴い総コレステロール、中性脂肪がやゝ低下する傾向がみられた。

しかし肥満度は移植後3ヶ月までに急増することから、更に早期からの治療食の試みが必要であり、更に食餌組成を変更して検討する必要がある。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔結論〕

今回用いた食事で肥満度の促進は抑制される傾向がみられ、これに伴い総コレステロール、中性脂肪がやや低下する傾向がみられた。

しかし肥満度は移植後 3 ヶ月までに急増することから、更に早期からの治療食の試みが必要であり、更に食餌組成を変更して検討する必要がある。